

川崎でワインの可能性を見出そう（番組4）

松尾：そうしましたら、時間があと前半5分になりましたので会場の皆様から、オンラインの皆様から、質問が前半の部分にあればお願いしたいのですがどうでしょうか。

客席：山田さんがですね、代々岡上にお住まいで、農業ですね、お継ぎになってこういう形で企業化する風に考えられたきっかけは、どんなことなのでしょうかとということが1つです。2つ目は、こういう形で農業を継続していくには、早い話がもうからないと続かないと思うんですね。ここまでこられたということはそれなりに利益が出ていたんじゃないかと思うんですけども。今の形で売上という、あれですけども農業そのものの収入とそれから色々、学校で教えられたりですね、そういうところでいわゆる農業以外の収入があると思うんですけども、その比率はですね、ザクっといってどんな感じで事業を成り立たせていらっしゃるのかと。この2つをお聞きしたいと思います。

山田：はい。すみません。ありがとうございます。最初のお話がこのビジネスに私が代々続いている農家であって法人化して進んでいったっていう考えなんですけども、私は申し訳ないですけどいまだに農業を好きじゃないんです。農家に生まれたのは、嫌ですね、私へアメイクの世界にずっといたんですね。青山のちょっと有名なところへ入らせていただいたんです。本当はずっとそっちでやっていきたくったんですね。私が専門学校を出てへアメイクをやってと、進んでいったんですけども、どうしても代々農家ですと、農家の話ってどうしても私の耳にはいりませんし、年に数回この地域に帰ってきたとき農地が少なくなっている現状を感じたときなぜだろうというのを、法律の観点から考えていったんですね。

今少し法律変わったんですけども、当時私がこのビジネスに入る前、今から15年、もう少し前くらいですかね。勉強した時に生産緑地法という、都市にしかない農地の法律があります。今度は2022年にそれが開放されて全部宅地化されるんじゃないかと大きな問題になっています。その農地、川崎は生産緑地がとて多いんです。その農地を残すためにはどうしなくてはいけないかとなると、その所有者自ら農地を耕作しなくちゃいけない。それも一生。自分の命が終わるまで農作業をしなくちゃいけないというルールがありました。で、10年は経ってなくて8年ほど前だと思うんですけども、少し変わりましたが、私がこのビジネスに入る時に、そのことが納得できなかったんですね。自分がやりたい夢がある中で、私はへアメイクに進みました。やりたかったです。でも他にもこういう思いして、農業やらなければ自然を捨てなくちゃいけないという気持ちにならなくちゃいけない人達が、どんだけいるんだろう。と思った時に、それはなんでそうってしまったんだと考えました。

その時に生産緑地法に今でも疑問が残っているんですけども、自ら耕作しなくちゃいけ

ない。貸すことも認められてなかったんですね。ということは自分で自ら一生かけてやらなければいけないなと思った時に、早くからやらなければ、私は農業って何年もかかって勉強できるものだなと思ったのでなるべく早くしよう。ただその悔しい思いがあったのでどうにかビジネス化する、そうすることによって儲からないとか、汚いとか、夢がないことから逃れたい。あとビジネスになってちゃんと収益が上がるようにしたいということがとても強い思いがありました。そういった部分で私が農業の少し仕組みを変えたいなと思ったきっかけ、そこから入らせていただきました。

今までの質問でもあるんですけども、どうやってお金をという話になったんだと思うんですけども、地方と都市って考え方変えなくてはいけないなと思って、農業って1次産業なんですね。ただ2次産業3次産業っていうんで世の中で6次産業化っていうのが叫ばれているんですけども、地方は農地が広いので1次産業にある程度の重きを置いて生産してビジネスにするということが、今までの考え方でそうだったと思います。川崎市でもそうだったと思います。

ただ農業をアミューズメント化する。みなさんに楽しんでもらえる環境を作っていくのはサービス分野にもなってきます。農業って考えただけでも色々な仕事生まれるんですよ。そうなってくると、1次産業に重きをおくのでは、川崎では今の税制制度では農地を残すことができないので、1次産業減る一方なんです。であれば2次産業、廃棄しないという2次産業を考えなければいけない。それプラス3次としてサービス合体とアミューズメントとか人々。生産者と消費者の距離が近いということも、もっと生かしながら皆さんに来てもらいやすいような農園を作っていくって、そこからお金を生んでいくことが必要だと思っています。

ただ、ここには農業の法律とても難しいところがありまして、今、国へもグリーンツーリズムとか、アグリツーリズムで畑に行こうという話をしています。ただ川崎市1%だけ上下水道がきていないところがあります。それは農地なんです。農地ってライフラインが一切きてないです。電気、ガス、水道がきてないそれが当たり前、でも、それで人が来てもらった時に何かあった時にお手洗い、飲み水だったり、日陰を作ることって建物禁止されているんですね都市計画法で。となってくると人を呼び込む準備ができてないんですね。その法整備を行政と話し合いながら進んでいかなければいけないなと思っています。

なので、1次産業、いまだに弊社としては1次産業に重きをおいているところがあるんですけども、飲食店まで自社で販売しているので中間マージンがないんですね。そういう部分で収入源として今安定しているのかなという風に思っています。

新しい取組としてAI化する農業のほうに少し力を入れて、人件費をまず、雇用は作りた

いけれどもその前段階でどれだけスマート農業化とかすることによって、人件費を抑えながらビジネスをできるかというところに力を入れております。以上です。すいません。ありがとうございます。

松尾：ありがとうございます。ちょうどお時間ですので1部これで終わりたいと思います。よろしく願い致します。

司会：ここで10分間の休憩を入れさせていただきます